

教員名	市古 夏生 (ICHIKO Natsuo)
所 属	文教育学部言語文化学科日本語・日本文学講座
学 位	博士 (文学) (早稲田大学 1998)
職 名	教授
URL/E-mail	/ichiko.natsuo@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

近世文学 / 仮名草子 / 出版文化 / 原稿料 / 浮世草子

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・『書籍覚書』(『国文』104、45-54)
- ・『日本女性文学人名辞典』(共編) 日本図書センター

◆研究内容

日本近世文学の中で17世紀を中心に研究を行っているが、ここ2, 3年江戸時代初期の小説・随筆類の中で、写本で流通している書物を精査し、版本との相違や独自性、特色などを考察するが、その成果の一端は、前年度に「仮名草子の読者の問題」に反映させている。また近世文学は出版文化の開花した時代であり、文学環境の1つとして出版に関する究明が必要である。出版文化を文学だけでなく幅広く分析するために、元禄時代に刊行されている「書籍目録」の諸本調査と収載書籍の基準などについて研究を進めている。さらに寛文年間(1661~73)に漢学者がどのような意識で書籍を購入したか、ということが判明する資料「書籍覚書」を紹介する。

◆教育内容

日本近世文学に関して教育を行っている。文教育学部では、「日本古典文学史論」で近世小説の展開を作品を紹介しつつ、講義をしている。「日本古典文学論演習」では、語句や背景となる風俗を調査させて、近世小説の読み方を習得させる。17年度は西鶴の浮世草子「武家義理物語」を対象とした。「日本古典文学論基礎演習」では、古典文学を読解するための調査方法を習得させ、17年度は仮名草子「大倭二十四孝」を対象とした。大学院では「日本近世文学特論」で作者の方法や版本書誌学・出版文化に関する講義を行うが、17年度は版本書誌学の文学研究への応用という意味で講義を行った。

◆将来の研究計画・研究の展望

①18年度より3年間科学研究費補助金で「出版機構の進化と原稿料についての総合的研究」を6名の研究者とともに推進しており、近世から現代に至る作家の経済的自立に関する推移をまとめる。②近世前期の出版物の目録である「書籍目録」の諸本調査と、出版者別に出版書をリストにし、文学関係出版者の特色、文学書の位置づけなどを考察する。③それに合わせて近世前期の出版書年表を作成する。④写本と版本の混在する仮名草子に関して、メディアの視点から分析を進める。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・挿絵に関する研究
- ・印税、原稿料に関する研究
- ・諸外国の書物と日本の書物に関する書誌学的研究

◆受験生等へのメッセージ

現代から一番近い時代の古典文学、これが近世文学です。文体、語句なども近代以降に繋がるものなので、慣れると理解しやすいと思います。

井原西鶴、曲亭馬琴などの書いた小説、松尾芭蕉の俳諧・奥の細道などはよく知られていますが、それ以外にも面白い怪異小説、遊里文学などがたくさん残されています。

また文学作品を出版しだしたのが江戸時代です。出版に関わる規制、作者と出版者との関係など興味は尽きません。近世文学をぜひとも知っていただきたいと思います。